

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 1ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町452-1		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念をもとに、社長・管理者・副管理者をはじめ、職員が理念を理解し実践に取り組んでいます。又、朝礼時には理念の説明や「職員規約」を職員皆で復唱しています。理念の中の「みんなで築こう」のみんなには利用者様・ご家族・地域の方々・ボランティア・職員が含まれており、地域の中のサンフラワーを目指しております。地区行事の参加やボランティアの慰問の招待など地域交流を図っております。運営理念に沿ったサービス提供が出来る様、月1回の勉強会・外部研修・国家資格取得に向けて日々のサービス向上に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を具体的に実践するための「職員規約」を毎日朝礼時に読み上げ共有に努めており、毎年度、ユニットごとに理念のなかからテーマを選んで、ビジョン・現状分析・課題・具体策等を話し合い、ユニットごとに年度目標を立てその実践に取り組んでいる。地域との交流では、事業所の納涼祭と地域のお祭りを合体させた夏祭りを開催することで、多くの地域住民と触れ合える機会を設けている。運営に関しては、ユニットごとの会議を受けてのユニットのリーダー会議により、職員全体の情報共有を図り、課題解決に向けてユニット間の連携を図っている。災害対策では、災害時の誘導が適切に行われるよう、居室入り口に配置した利用者のADLの状態を色分けしたカードを活用して、避難時等での支援に役立てた取り組みを行っている。日常的な外出においては、1ヶ月ごとの活動予定表を作成し、それに沿って日々の支援を行うとともに、その都度結果の評価を行いながら、次につなげられるような工夫した取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を具現化する為に職員規約を職員に配布し、朝礼時唱和している。月2回の会議の中で話し合いを行ったり各ユニットで理念を元に目標を立て取り組んでいる。	理念を実践に繋げるため、毎日、朝礼時に、人として・会社として・グループホームとしての基本から個々のケアに至るまでの「職員規約」を読み上げ、確認と共有に努めている。また、毎年度、各ユニットごとに理念に基づいた目標を定め、理念を踏まえたケアが具現化されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	どんど焼き、町の清掃、祭りに参加し、利用者様と地域の方々が楽しみながら行っている。又、毎年クリスマス会には慰問の人も招待しています。	様々な地域行事に参加するほか、地域との交流をより深めるため、クリスマス会のほか、今年はハロウィンも加えることとしている。また、事業所行事の納涼祭と地域の祭りを合体しての合同行事を開催するなど、事業所が地域と一体となって相互理解を深められるよう、取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を通して区長様をはじめ、民生委員や地域の方への情報提供や支援の方法、実践の報告を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し市職員、区長様、民生委員、ご家族へ分かりやすいテーマを決め利用者様の日々の様子、施設の取り組みなどを報告しています。	会議では区長や民生委員などから、ヒヤリハットに関する意見や災害対策などに対しての意見が出され、改善を図るよう取り組んでいるが、家族については、それぞれの事情もあり、現在も参加が得られない状況である。	家族に対して、運営推進会議の意義や役割の理解を深めてもらえるよう、例えば、欠席者にも議事録を送り内容を知ってもらうなど、引き続き参加を促すための具体的な取り組みを検討していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係、生活保護係などに情報交換や利用者様の相談、沼田祭りの市役所への駐車場の許可など関係を築くよう取り組んでいます。	日頃から、生活保護や利用者の金銭管理関係の相談などを通じて、良い関係が築けるよう努めており、運営推進会議では、情報提供や運営などに関する助言などを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットにてマニュアルを配布し勉強会を実施している。又、非常口の施錠については時間を決め開放している。又、言葉による拘束も視野に入れて取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会には各ユニットリーダーが参加して、身体拘束をしないケア実現に向けて話し合われている。会議内容等は職員の勉強会でもテーマにあげて話し合われるとともに、ケアプラン会議やチームケア会議等でも振り返りを行い、特に、スピーチロックなどについては注意喚起に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行ってきた職員が職員を対象に勉強会を実施している。不適切なケアがあった場合、チームケア会議で話し合い虐待が見過ごされないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に関する関係者と連携を取り、相談できる体制を取り活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明と同意を得てインフォームドコンセントを心掛けています。疑問・不明な点がある場合は随時対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者様の様子が分かる写真と、一言記入したおたよりとケース記録のコピーを利用料請求書と同封し、事業内容を知ってもらい、面会時に利用者様の状況を伝え、何でも言える様努めています。苦情・対応策を記録に残しています。	利用料請求書を送付する際には、「おたより」やケース記録のコピー・写真などを同封し利用者様の様子を伝えるとともに、年1回アンケートを実施したり、面会時には意見や要望を聞くように努めている。具体的ケアに関する意見・要望はあるものの、事業所運営に関する意見は少ない状況である。	事業所として、家族が事業所運営に関する意見や要望を出しやすい機会を設けるなどの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	無記名で自由に書ける「自発的改善箱」を設置し、社長をはじめ管理者・副管理者・各リーダーで改善に向けて話し合っています。	日頃から意見を言える雰囲気であり、「自発的改善箱」を通して、また、ユニットごとのチームケア会議などでも意見が出され、そうした意見については、リーダー会議で話し合わせ改善に繋げており、必要があれば、管理者や会社代表にも直接話すことができる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給、リクエスト休日など自由に休日を取ることが出来る。給与等の見直しや個人の目標を設置し、資格取得を支援し向上心を持って働けるよう努めています。雇用管理者の講習も受けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自発的に働きながら勉強できる様休日等、就業環境に配慮しながら外部研修、資格取得に対し機会を提供し積極的に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設、同業者と交流の場を図り、情報の交換、施設見学等を行い、サービスの質の向上につなげています。(地区の勉強会の参加など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が利用者様の訴えを傾聴し受容できる様相談援助の教育を行っている。又、毎日のケアの中で常に利用者様の不安や要望・苦情等に耳を傾け相談援助を行い、信頼関係を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員がご家族の訴えを傾聴し受容できる様、常に体制を整えています。又、支援の方法と一緒に考える様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に適切に支援ができるよう、ユニット会議を開き対応しています。又、場合によりご家族様と連絡を取ったり、話を伺ったりして望んでいけるケアを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で個々の能力にあった役割を見つけ、モップ掛け・下膳・洗濯物たたみ・調理の手伝いなど介護される方の立場にならない様支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連携を図り無理のない様面会・外出・受診などお願いしています。支援される一方の立場にならない様互いに支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭り見物や、友人の訪問、実家への訪問などドライブを兼ねて支援しています。又、友人・親戚からの電話にて会話が行えるよう努めています。	利用者にとって馴染みのものはいつまでも記憶に残っていることから、利用者の自宅へ同行したり、知人とのやりとりがスムーズにいくよう配慮したりなど、その人の価値観を大事にした個別支援に努めている。また、家族の面会が少ないこともあり、「おたより」発行など工夫しながら利用者の様子を伝え、面会につながるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクや月間イベント予定表を作成し、生活の中で毎日取り入れ、レク・イベントなどを通してお仲間との交流を図り孤立してしまう利用者様がいない様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、アフターフォローとしていつでも相談(話し合いできる)にのる体制を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の15分の会話を行ったり、レクや通院時などの機会に利用者様の思いなど把握に努めています。意思表示の難しい人は反応や態度などのサインを見逃さないよう会議で話し合い一人ひとり楽しく安全に過ごせる様支援しています。	職員は、利用者の気持ちを推測できるよう、最低でも1日15分以上は利用者と一対一で会話することを意識してケアにあたっている。失語症者にも視線と五感で訴えるなどして、把握した意向は「経過記録」に残し、職員間での共有を図り、利用者の意向に応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族と会い、事前に話を聞いています。又、毎日15分の会話を取り入れ記録に残すよう全職員が把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の性格・行動等を記録に残し、過ごし方や心身状態や有する力を把握する為、ユニット会議を行い職員同士情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態・行動・思いを記録から情報を得て、ご家族の要望や意見を聞き、ユニット会議で検討し、リーダーが介護計画を作成しています。必要に応じ医師の意見を取り入れたり、6ヶ月見直しや状態の変化に応じ随時計画の見直しを行っています。	各ユニットの計画作成担当者が案を作成し、介護支援専門員も加わりケアプラン会議で話し合い、計画の見直しなどを行っている。モニタリングの様式の改善が図ったが、介護計画につなげていく記録にはいたっていない。	各種記録が介護計画につながるようさらに工夫するとともに、モニタリングの仕組みを整えるための検討も期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の行動・意見を記録に残し、提供したサービス以外の気づきを観察事項に記入し、職員の情報共有に努めています。又、介護計画の見直しの際、記録を活用し実践に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況により、外出・外泊・買い物など柔軟な支援に取り組んでいます。関連施設行事などにも参加していただく機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや町の主催の行事に参加したり、職場体験の中学生との交流(外散歩・イベント実施)により、利用者様が楽しく生活できる様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向に沿って対応しています。(職員付添いなど)又、他の病院や緊急時などはご家族と連携し適切受診が出来るようにしています。受診内容は記録に残し、ご家族とも情報共有できる様行っています。	これまでのかかりつけ医を受診する利用者が多く、受診にあたっては職員が付き添うなどの支援を行っている。受診の結果は、「経過記録」に記入し、職員間の共有を図るとともに、1ヶ月単位の「ケース記録」に整理し、そのコピーを家族に送るなど利用者の状態を伝えるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や既往歴の把握・状態の変化・Bt測定など記録に残し適切な受診が受けられる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を取り急変時の連絡・依頼・オムツなどの不備が無い様協働し、定期的な面会を行い関係者との情報交換や早期退院出来る様に関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診体制を取り入れ、協力医療機関と相談し「ターミナルケアマニュアル」を作成・活用し、重度化に対し介護計画同意書をご家族と取り交わし、ご家族・職員と話し合いを繰り返し、重度化や終末期に向けたケアに取り組んでいます。職員との情報共有・状態の把握に努めています。	ターミナルケアマニュアルが作成されており、利用者の状態に応じて医師・訪問看護師などと連携を図り、家族の意向に沿った対応を行っている。また、勉強会のテーマとしても取り上げ、職員間での共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けており、各ユニットに急変時・事故発生に備えてマニュアルが置いてあり、把握に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けた訓練のほか、夜間を想定した訓練と総合の自主訓練を行っています。区長様・民生委員様の協力を仰いでおり、避難場所として民生委員様の自宅を設けております。防災管理者の資格も得ています。	消防署立ち会いの夜間訓練と、年2回の自主訓練を行っている。運営推進会議での意見を受け、各利用者ごとに介護の度合いがわかる色分けしたカードを活用し、災害の際に適切に誘導が受けられるよう工夫している。加えて、水害・土砂災害マニュアルを作成しシュミレーションするなど、体制確保が話し合われている。地域住民も視野に入れた1週間分の食料備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中の「悔いなき言動」をもとに行動するとともに言葉でも傷つけないケアを心掛けています。利用者様の言動を否定せず傾聴と受容するとともに命令形の言葉ではなく利用者様の意思で選択できるよう支援しています。居室にはのれんなどを掛け、プライバシー保護を心掛けています。	利用者の変化を見逃さないよう居室入り口は開けてあるが、長めの「のれん」を掛けるなど、プライバシーに配慮した対応がされている。利用者への声かけにおいては、職員は理念を意識してケアにあたっており、プライバシーマニュアルも作成され、それに沿った対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者様の希望を伺い、選択・自己決定出来る様な言葉かけ・場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の訴えを優先し、外出の好きな方はお茶会・ドライブ・その散歩など支援しています。買い物が好きな方はファッションセンターや100均など希望に沿った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の理容師さんの訪問や、毎朝鏡を見て整容を行い、その場や状況にあった整容を行い、清潔が保てる様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・味見・盛り付け・下膳・配膳・食器洗いなどを職員と一緒にしています。月に1度ユニット順でお好み食を取り入れ提供しています。	献立は栄養士が立てて、ユニットごとにアレンジしながら、職員が交替で調理している。様々な季節行事に合わせた食事や、月1回ユニット順に「お好み食」を用意するなど、利用者が食事を楽しめるよう支援している。利用者は、できる範囲で皮むきや下膳・食器洗いなどを職員とともにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の施設の栄養士が献立を作成し配布しています。一人ひとりの食べられる量や水分量を記録に残し、状態の把握に努めています。又、各ユニットに食品衛生管理士を設置しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・案内・介助等一人ひとりに合った支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を日々の記録に残し、個々の排泄パターンを職員が把握できるよう努めています。利用者様の状態に応じて適切な支援・介助を行っています。新人職員にはリーダーが中心となり、教育に努めています。	利用者それぞれの排泄状況を「経過記録」に記録し、職員は利用者の問題行動にとらわれないよう、排泄パターンを把握したうえで「15分チェック表」を活用し、トイレ誘導やおむつ交換などを行うなど、利用者個々に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握して消化の良い食事や、軽い運動など自然排泄できるよう心掛けています。又、困難な場合は主治医と相談し、服薬で排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本に、利用者様の好きな時に入浴出来る様支援し、体制作りをしています。入浴を嫌がる方には声掛けの工夫や入浴剤の使用により、楽しんでいただけるよう工夫しています。	週2回の入浴を基本にしているが、希望があればいつでも入浴できる体制になっており、必要があればシャワー浴での対応も行っている。入浴を拒否する場合は、別の職員が声かけを行ったり、入浴日を変えたりなどの対応をしている。また、入浴剤なども使用し、利用者がゆっくり楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムで昼寝時間や就寝時間が決められております。休息出来る様リネン交換や居室清掃など清潔に保ち、安眠出来る様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり内服薬の説明書を個人ファイルに保管し、受診時には職員で情報を共有し、飲み残し・飲み忘れがないか確認しています。又、目的・作用・副作用を理解し、状態の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人・ご家族よりアセスメントを行い、得意な事・好きな事など情報を集め、毎日のレクに取り入れ気分転換出来る様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのニーズに沿って、週2回程度の外散歩・お茶会・買い物・季節行事を予定表・計画表をもとに支援しています。又、ご家族のご協力のもと、沼田祭りやお墓参りにも出かけています。	様々な地域行事に参加したり、また、利用者の意向に沿って買い物やドライブなどの個別支援も行い、なるべく利用者が外へ出かけられるよう努めている。また、レクリエーション月間表に沿って支援を行い、毎回の結果を評価し、次につなげるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る様、利用者様は1ヶ月のおこづかいを決め、スーパーや道の駅・ファッションセンター・100均など買い物に出かけています。又、いけない場合は要望を伺い、職員が買い物に行く支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月近況をおたよりに写真を作りお知らせしたり、職員が間に入りご家族と連絡を取ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	応接間にはTV・新聞・灰皿・雑誌を設置。お仲間同士・ご家族との共有空間が設けており、各ユニットの居間には季節感を取り入れた飾りつけなどを行っています。又、イベントやドライブに撮った写真など飾ってあります。	居室表示やトイレ表示が、わかりやすいよう個々の状況を配慮した工夫がされている。廊下には季節を感じられる飾り付けがされており、また、写真付きで職員が紹介、利用者の写真や行事の写真なども掲示され、利用者との話題作りにも役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お仲間と良好な関係を保てる様、一人ひとりの席の配置に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口は室内が見られない様のれんがが掛けてあります。仏壇やご家族の写真・誕生日・敬老会などの色紙など飾られたり、ゲートボールで賞を取ったメダル・趣味の書道などが飾られています。居室清掃など行っています。	利用者が使い慣れた布団やタンスなどの家具が持ち込まれており、壁には家族の写真なども飾られ、なかには以前から大切にしていた人形などが置かれた居室もあるなど、利用者が過ごしやすい居室づくりに努めている。また、利用者の状態に配慮して、安全のために床にカーペットが敷かれている居室もあり、個別の居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の手すりの設置や、一人ひとりが使いやすい様ベッドやタンスの配置、トイレ等の案内の目印をつけたりと安全に配慮しています。		